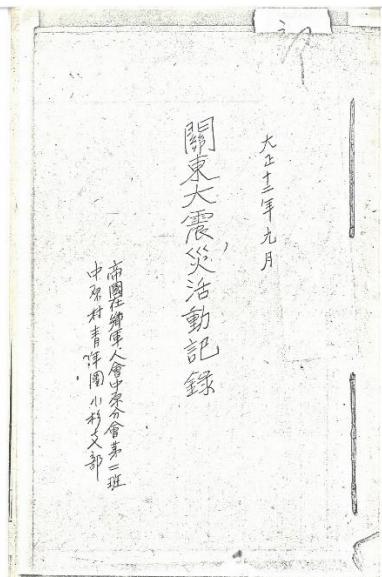


## 【資料紹介】関東大震災における中原村の様相

今回紹介するのは川崎市公文書館が複製古文書として所蔵している「大正十二年九月関東大震災活動記録」（整理番号：40-近・現-259）という資料です。

この資料は中原村青年団小杉支部副支部長であった小林英男氏が震災当時のこと記した記録です。震災が発生した大正12年（1923）9月1日から9月19日までの中原村、特に小杉の様相が記されています。

震災が発生し、家屋の損壊が激しかったものの、中原村では死者はいなかったといいます。震災発生翌日には、東京・横浜方面から避難者や見舞に行く者が行き交っており、こうした事態に対応するため、小杉十字路に休憩場・湯呑場を設けて青年役員・団員が交代で接待したそうです。また、朝鮮人暴動に備えるために警察から出動要請があったことも記されており、朝鮮の人々が暴動を起こすという流言飛語が川崎にも飛び交っていたことがわかります。以下、9月1日から3日までの様相がわかる部分の記載を紹介します。



## 【本文】

大正拾貳年九月一日 曇

午前十一時五十八分四十五秒旻天何の無情ぞ この日この時を以て有史未曾有の大地震は関東を襲へり、この小杉の地も他分に洩れず大災害を被る。この変事に臨み軍人会、青年団はよく協力一致して郷土の為、君国の為に奉仕し、その本分を全ふしたり、記して以て後庇に伝へんとす。

二百十日の前日としては穩かすぎる程平静なる日なりき。

然るに何ぞ正午に先つ数分間、人々は昼食の卓に就かんとする一刹那、ヅシーンといふ大音響と共に全くだし抜けに地上のあらゆるものが一時に動き出し鳴り出し躍り出し、一しきりは全く天地の終りかとさえ思はれる程なりき。村内に家屋の被害多數ありしも死者のなかりしはせめてもの幸福なり。家屋の損害は各戸共、実に甚はだしく小杉中にてハ全壊四戸、半壊十戸、之に近きものは枚挙に遑なくそのまゝ居住し得る家は数ふる程もなし。

扱この大変革に臨み非常に応ずる為 常設委員・消防部長・班長・支部長の集会協議ありてその夜は正副支部長・班長・小頭にて各町内毎に夜警をなす。この日 東京横浜方面大出火、夕刻に至り益々激しく、その上空は一面に焰々として天をも

こがさん勢にてすさまじ何ぞいふばかりなし

九月二日曇

幸ひに当地には火災も盜難もなく一夜は無事に明く。

二日は未明より東京や横浜方面より田舎を目指す避難者の群多く憐を極む。又東京、横浜に向け見舞に行く者も多く為に往来繁雜踏を呈す。在方に逃れ行く者は三々五々打ち連れ、児を負ふ母あり、子に負はるゝ老婆あり 或は荷車に曳かるゝあり、壯者と雖も顔色なく、飢と疲労の為に急ぐ足もはかどらず、中には地震以来水さえ飲めずといふ者もある始末なる故、之に応ずる為、当字十字路に休憩場湯呑場を設け青年役員、団員交代にて接待す。

この日 午后、警察より「京浜方面の鮮人暴動に

備ふる為出動せよ」との達しあり、在郷軍人、青年、  
消防等村内血氣の男子は各々武器を携へ集合  
し市之坪境まで進軍す。この時、「鮮人加瀬山に  
現はる」との報あり。気の早き者十数名逸く出発、  
その辺の村民に先んじ山中隈く尋ねしも姿影を  
見ず夕刻空しく引き上ぐ。

同日、本村小学校御真影警護の為支部幹事  
二名を派遣す。

当夜は青、軍、消、殆んど全員にて小杉本隊、支隊  
派出所を設け、他部落とも連絡を保ち万一の  
警備をなす。所々より様々の伝令あり、警鐘  
さえ乱打さるゝ有様なりしも実際に怪人、暴漢  
等の姿を認めし者はなし。斯くて黎明に及び解散  
各自、家もあること故 自家の応急処置、親族の  
見舞等に従事す。

九月三日 曇 午后激雨  
本日より十字路の接待場は当番を役員共三名とす。  
砂糖場、麦湯の接待の他 避難者に道を教ふる  
等にて多忙を極む。  
午后一時より中原小学校にて支部長会議あり、家屋  
破損処置の件につき協議す。午后二時より玉川村  
なる水道部に鮮人移動すときき当支部及上丸  
子支部同じく軍人班、並びに消防の幹部六名にて  
共同防禦の為出動し、変事なく引上げ  
当夜より夜警は青年軍人が主となり各町内毎に本部  
を設け又新道の南部は独立にて警備す。  
夜警人員は各戸一名を標準とし、中、半数宛  
勤務することゝす。夜食として字より白米一人二合宛  
支給さる。

中原村の夜警は10月3日には終了したといいます。このように震災直後の混乱期にも拘わらず避難者の休憩場を設けるなど冷静な対応が見て取れると共に、朝鮮の人々に対する流言飛語に対しては「村内血氣の男子は各々武器を携へ集合」したとあります。未曾有の大震災に対する人々の反応がよくわかる史料と言えます。

今回紹介した資料は2023年4月1日～9月30日に川崎市公文書館にて開催した公文書館企画展示「あなたに伝えたい記録と記憶－公文書館所蔵資料から－」第15回「関東大震災と川崎の復興」にて展示しました。今回紹介した資料以外にも川崎市公文書館には沢山の複製古文書を所蔵しておりますので、ぜひご利用ください。

＜資料情報＞

「大正十二年九月　関東大震災活動記録」（整理番号：40-近・現-259）

※閲覧・複写の際には利用申請書・複写申請書を記入頂きます。

[川崎市：歴史的公文書等の情報提供 \(city.kawasaki.jp\)](http://city.kawasaki.jp)